

2024 ファン・サポーターカンファレンス」議事録

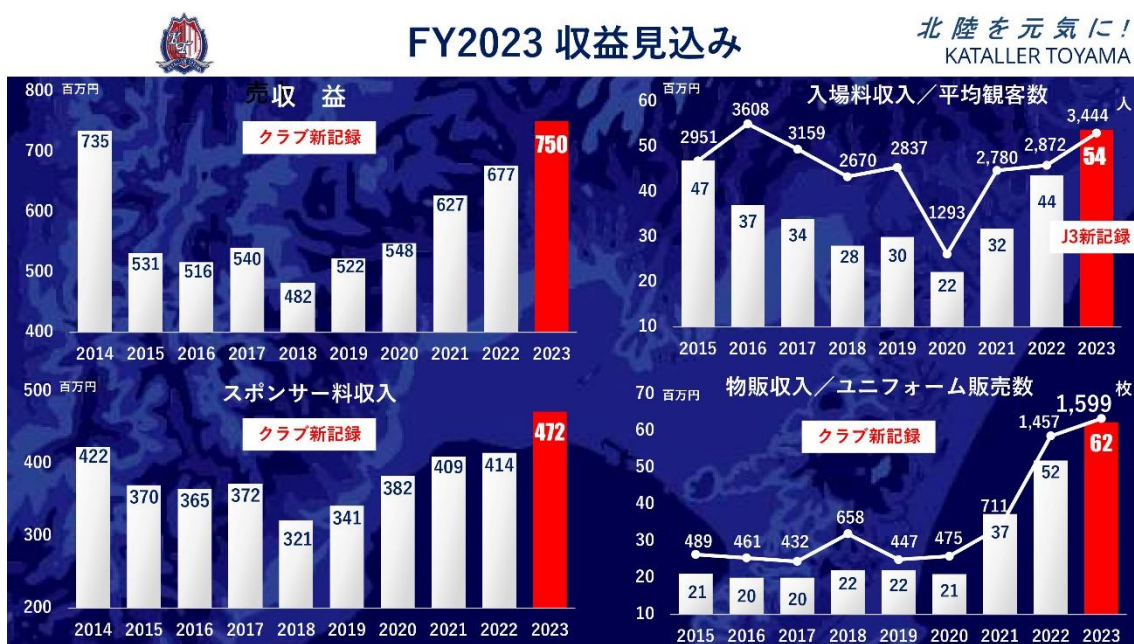
■日時：2024年1月21日（日） 13:30～15:30

■場所：富山県総合運動公園陸上競技場 会議室

筆：事業部 マネージャー 篠崎道憲

【事業方針等説明 / 左伴繁雄 代表取締役社長】

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。先日の新体制発表会でビジョン2024の話をさせていただきました。その中で2022・2023シーズンをJ2昇格の為の勝負の年として、会社の蓄えを切り崩しながらやってきて、2024シーズンはその蓄えが無い状態でどうやって戦っていくかというところを話させていただきました。今日はそこから情報やデータに基づいてもう少し詳しく話をさせていただきます。



最初にこのグラフを見ていただきたいのですが、収益は7億5千万円でJ2時代も含めて2023年度は過去最高を記録する見込みとなっています。最新の状況では7億8千万円くらいで着地となりそうです。私が着任当初は5億円台だったのが、この3年間で6億7億と増えてきて今では8億円に手が届きそうな状況まで来ております。収入の約6割がスポンサー収入ですが、グラフを見ていただければわかるとおり、ほぼ全事業で増収しています。その象徴としてユニフォームのスポンサーが全部埋まったということがわかりやすく増収の軌跡を表していると思います。入場料収入・物販収入にしても右肩上がりになっています。

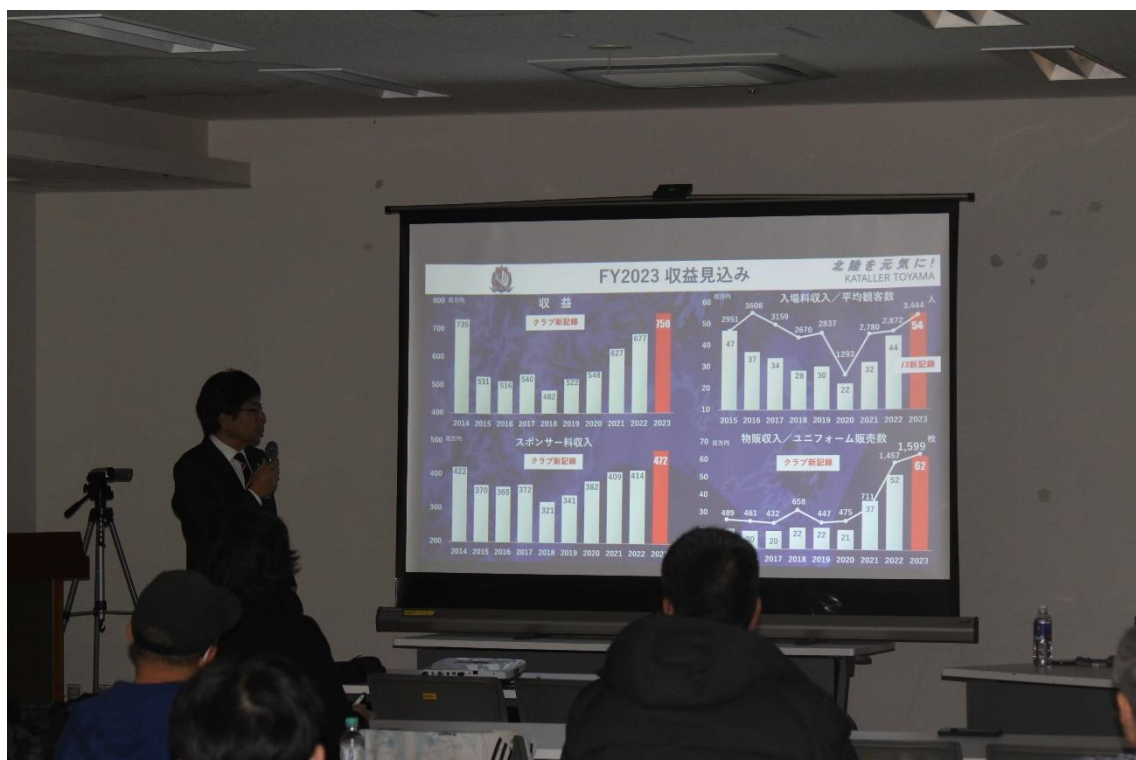
特に物販は 2020 年から 3 倍に伸びています。私はスポーツクラブの社長をやり始めて 20 年経ちますけど、このような伸び方をしているのは今までありませんでした。2021 年に富山に来た時に富山県というのは豊かな街で財力もあって郷土愛が強い人が多いので、物販は必ず伸びると思っていましたが、ようやくそのトレンドに追いついてきたかなと。非常に良い方向に進んでいると思います。皆さんありがとうございます。



続きまして強化費の推移を見ていただきたいのですが、3億5000万円というのは私が過去 J2 に昇格したチームのデータを調べていて J2 に戻る時にこの金額以上あれば昇格の確率が高い数値でした。2022、2023 シーズンとその最低ラインの金額は確保してきました。このグラフを見ると 2020 シーズンまでは最低限のラインに 1 億円以上届かないところで戦ってきたわけです。2022 シーズンから選手の編成を見ていただければわかると思うのですが、シルバ選手のような単価の高い選手を獲得したり、長丁場のシーズンを乗り切る為に実力差が少ない選手層で 2 チームが作れる編成になってきました。皆さんにわかりやすい例で説明すると昨シーズンの天皇杯 2 回戦の京都戦がわかりやすいかもしれません。週末のリーグ戦を優先する為に水曜日の天皇杯ではリーグ戦からメンバーを大きく 7 人入れ替えました。次の 3 回戦の新潟戦にしてもリーグ戦からメンバーを入れ替えています。結果は皆さんご存知のとおり、チームの力は落ちずに京都に勝利し、新潟にも延長再試合までいったわけです。このようにスタメン以外の控えもベンチ外の選手も同じくらいの実力を持った選手を揃えようとするのが 3 億 5000 万円というラインは非常に大事です。強化費にかけられるお金というのは一般的に収益の 40~45% ぐらいです。この 3 億 5000 万円の強化費を維持しようとするのが年商は 7 億 8000 万~8 億円くらい必要です。

収益のグラフをもう一度見てもらうとわかるのですが、2022年は勝負の年として赤字も辞さずということで3億5000万円を超える強化費を設定しました。最終的には1億6千万円の赤字が出ました。今期についても7億8000万円ぐらいで着地見込みですがチーム強化費をまかなう売り上げには若干届かず赤字が出る見込みです。

では赤字が出た時にどのように調整しているかということ、元々蓄えていた貯金、いわゆる資本金を取り崩して凌いできました。2021年に社長に就任した際は2年くらいかけて稼ぎを増やしてそれから強化費を増やして選手を入れて勝負をしようと思っていました。しかしながら皆さんからの期待値というのが想像以上で赤字を出してでも勝負しなくてはならないという思いに変わりました。強化費に対して稼ぎが足りない分は増資という形で貯金を増やし、その貯金を取り崩して2年間で使い切りました。貯金を使い切っても昨年度J2に上がっていればその見返りに収入も大きく増えるので問題なかったのですが…。新体制発表会でも言いましたが貯金がほぼ無い中で2024年は運営しなくてはならないのです。皆さん方にもお願いをしてきましたけれども1月末で貯金が底をつく状況になるのでシーズンパスやファンクラブの入会を早めにお願ひしてきました。皆さんが本当に速いピッチで購入や加入していただいたお陰で何とか資金ショートすることなく済みました。本当にありがとうございました。



次に2024年度の予算計画についてですが、ここからは新体制では話してないのでここにいらっしゃる皆さんに初めて共有させていただく内容になります。お伝えしているとおり貯金がほぼ

無い状況から始めなくてはいけないので年間を通じて使ったお金が稼いだお金以上になると資金ショートとなって会社が潰れてしまいます。収入と支出がイーブンになるような予算計画を作らなくてははいけません。ただ今年は何もしなかったら昨年の収入ベースから5000万円程落ちてしまう要素があります。1つは違約金収入で昨年は松本・川西選手の移籍に伴う違約金収入がありました。しかし2024年はそのような違約金をもらえるような移籍はしていません。それに加えてONETOYAMA・J2復帰祈願・個人スポンサー協賛などの毎年0から始めなくてはいけない商材がありましてこれらの収入が3000万円くらいです。これらをほっておくと5000万円くらい2023シーズンから比べて売上が落ちてしまいます。それに加えて2023シーズンが最終的に2000万円近くの赤字になりそうですので約7000万円を売り上げで取り返すかコストを削減しないといけないわけです。これらが今クラブで直面している難しい問題です。この7000万円落ちてしまうことに対して対策をしないといけないのですが、大前提として強化費を落とすことはしません。経営者の中で2つのタイプがいて、お金が回らないから一番手の付けやすい人件費を落とすのが1つ。それ以外にお金が無いなら死ぬほど努力して這いつくばってでもお金を集めようとするタイプ。私は後者で、カターレでもこのスタイルで3年間やってきました。それに社員も応えてくれて過去最高益を出し続けてくれました。大体このスタイルだと今までのクラブでは3年以内に昇格などの結果を出してきて、上がったタイミングで急激に収入が増えるのでそこで一息ついて社員に臨時ボーナス出し、もう一回ギアを入れて頑張る形を取って来ました。でもカターレでは3年で昇格できませんでした。4年目もこのスタイルを続けることは流石にできないと思っています。社員も含めてクラブが相当疲れていますので。ではどのように手当てをするのかというと1つはスポンサー1社あたりの単価が低いのでそれを上げること。他のクラブと比較してもうちは低いです。1社あたり60万円くらいです。J2に行くとこの単価が大体150~200万円がざらです。富山はスポンサーが大体700社ありまして既存の契約を更新しようとするとも5人いる営業マンが1日2社回って月20日間だと全部回るのは、契約の継続だけで3.5カ月くらいかかってしまう。1月~4月の半ばまで契約更新の訪問をして、そこから新規契約の営業を始めようとするともうシーズンが始まっている為、契約が取れても金額が3/4とか2/3とか満額にはならないのです。そこでも損してしまう。やはり単価を上げていくしかないですね。

もう1つはチケット単価を上げる事です。現在1試合1人平均で800円くらい。Jリーグ60クラブの中では50番目より下です。これをチケット価格の値上げをすることで1000円前後まで上げられればと思っています。チケット価格を約30%上げるにあたってそれに見合った試合はお客様にお見せできているであろうと思っています。

そういった見る価値のある試合を継続的に提供する為に、チーム構成年齢についても強化部長にお願いしました。J2に上がった後も含めて年齢が20から30ちょっと過ぎくらいまでの間に万遍なく構成して欲しいと。ちょっと年長者が多いチームになって来ていたので。ベテランが多いクラブはベテランが一気に抜けるとチームがガラッと変わってしまう

ので。2024 シーズンで言えばベテランと言われる選手は河合選手くらいです。29 人中 10 人が新たに外部から加わった選手です。チームの約 3 割。3 割以上入れ替えてしまうとチームが壊れてしまうのでそこは気を付けました。昨年悔しい思いをした選手達も残ってもらっています。色々な条件がある中で強化部長には年齢構成の是正をしながら良い選手達を揃えてくれたと思っています。特に河合選手には若い選手達に技術のベンチマークとして上のカテゴリーに行くにはここまでの技術が必要だという基準を見せてもらいたいと思っています。そして若い選手達がどんどん伸びていき上位カテゴリーに移籍していく。球団経営をしていく上で綺麗事だけではなく、選手が移籍金を残していくように意識はしていかななくてはならないと思っています。

新体制発表会では話して無い内容も加えて今回お話をさせていただきました。今日のお話した内容については新体制発表会のように映像ではなく議事録の形で出るという事です。是非本日参加した皆さんにはクラブの状況など文字で伝わらない部分を口コミでお知り合いなどに伝えていただければと思います。ご清聴ありがとうございました。

【チーム状況説明 / 遠藤善主 強化部長 ※Zoom でキャンプ地の高知より出演】

皆さんこんにちは。今日はお集まりいただきありがとうございます。チームは昨日、2 次キャンプ地である高知県の春野に到着しました。1 月 1 日に能登で地震があったなかでこうしてサッカーができる事、キャンプが無事できる事に関係者の皆様やキャンプにご支援いただいたスポンサーの皆さん大変感謝しております。本当にありがとうございます。まずはキャンプでの選手の様子や何人かの選手にメッセージをもらいましたので動画をご覧ください。





動画を見ていただいておりますが、非常に天気の良い中、選手達はのびのびと元気にトレーニングに励んでいます。最初の時之栖でのキャンプでは何人か風邪で体調不良者が出ましたがそのメンバーも戻ってきました。1次キャンプでは守備の個人戦術とフィジカル的なトレーニングが中心で特に守備に重点を置いていましたが、これからの高知キャンプでは徐々に攻撃の要素のトレーニングを増やしていくとともに、トレーニングマッチを含めて攻守にわたって全体的なトレーニングを増やしていく予定です。

【ここからは遠藤強化部長に対する質疑応答】

Q.ブラウブリッツ秋田より移籍してきた井上選手はどのポジションで使われるつもりで獲得したのか？

A.基本的にはボランチの選手として獲得しています。井上選手の特徴としてスピード・前に出ていく力があり、インテンシティーが非常に高い選手です。激しくボールを奪いに行く、今まで富山にはいなかったタイプのボランチとして活躍してくれる事を期待しています。また皆さんもご存知かと思いますが明るく朗らかで人間性が非常に良いです。

Q. 松本孝平選手（FW）に非常に期待しているが、現在の状況など教えて欲しい

A.先ほども話したとおり攻撃のトレーニングが少ない中でまだ本領を発揮できてないところはあります。ただシュート練習などを見ていると非常に良いシュートを打っています。彼

については讃岐時代に直接戦っていますし、それ以来ずっとスカウティングをしていた選手なのでチームにフィットするのも早いのではないかと考えています。

Q.田川選手が期限付き移籍を延長してくれた経緯を教えてください

A.田川選手からはシーズン終了後すぐにカターレでやりたいという表明をしてくださいました。ただクラブ間の事情が最終的に考慮されるのでどうなるかはわからなかったが、カターレとして是非残って欲しいと思っていた選手だったので残ってくれることになって良かったと思っています。

Q.ゴールキーパーは3人体制か教えてください

A.3人体制で行く予定です。

Q.10名の新加入選手の特徴を教えてください

A. 松本孝平選手：サイズがありフィジカルが強い。ターゲットタイプとしてだけでなくDFの背後を取りに行くなどアクションを起こせるのが特徴です。

碓井聖生選手：チームの中でもトップクラスにシュートが上手い。左右両足どちらも精度が高いシュートが打てる。ポストプレーも背後への抜け出しも器用にできる選手なのでコツを覚えれば2桁得点も期待できると思います。

高橋馨希選手：左足からのキックの精度が抜群。狭いエリアでもボールを上手く扱える。サイドやトップ下でのプレーに期待しています。

布施谷翔選手：両サイドの中盤、サイドバックがこなせる選手。体力テストではチーム内で一番の成績。ドリブルでの推進力があるだけでなく、パスも出せる選手なので複数のポジションでの活躍を期待しています。

井上直輝選手：広い守備範囲とボールを奪う能力に長けた選手。奪った後の持ち上がりも特徴。パーソナリティーの部分でも非常に元気が良くチームを明るくする部分でも期待しています。

河井陽介選手：ボールを止める・蹴るといった基本技術のレベルが非常に高く、安定して高いパフォーマンスでプレーができる選手。若い選手などが彼から学んで技術レベルを引き上げてくれる事を期待したいです。

瀬良俊太選手：小柄ながら力強い守備ができる選手。昨年のTMではアルトゥール選手

からボールを何度も奪うシーンがあった。またボールの扱いや判断力が非常に高いレベルにあるクレバーな選手でボランチでの活躍を期待しています。

川上優樹選手：サイズがありながらも足が速く、スピードがあるのが特徴。チームが高いエリアからプレッシングをかけた時の背後のスペースをカバーできる能力があるのでそういった部分に期待しています。

大迫暁選手：左右どちらでもサイドバックができる選手。ビルドアップやボールを運ぶなど安定してプレーができる。ロングスローも得意なので今までなかった新たなうちの武器になるのではないかと考えています。

西矢慎平選手：左右どちらでもサイドバックができるが一番の特徴は攻撃の面。高いエリアまで常に侵入してゴールに関わるプレーができる選手。サイドバックながらも得点に絡んでくれることを期待しています。

Q.高橋駿太強化担当について教えて欲しい

A.強化担当 1 年目なのでスカウトや選手のマネージメントの部分など少しずつ仕事を覚えていってもらっている最中。これから編成のコンセプトをしっかりと理解しながら選手を探したり、獲得するなどしてもらいたいと思っている。キャンプでは選手に混ざって練習をこなしていたりしていました。

Q.ガブリエル選手の状況を教えて欲しい

A.ブラジルでのリハビリを終えて 1 月の頭に帰国してチームに合流している。人とのコンタクトが発生するトレーニング以外のパスやランニングなどは問題なくこなしている。膝の手術も 3 回目なのでチームとしても慎重に復帰までのプロセスを組んでいます。

Q.今シーズンのチームのコンセプトを教えて欲しい

A.昨年からのベースとしてハードワーク・攻守の切り替えは継続していく。ここが富山の一丁目一番地で我々が立ち帰る部分であることはスタッフ・選手で共有しています。それに加えて今年は自分たちからアクションを起こして攻めるということを徹底したいです。その為にはただ頑張るって走るとか戦うといったことだけでなく、選手個々が判断力や考えることを止めないなどの思考のインテンシティーを高めなくてはいけないと思っています。昨年度あたりからそういったことができる選手が少しずつ増えてきましたし、今年の新加入選手もそこを加味して獲得している。今シーズンはそういった部分でも注目してもらえればと思います。



【全体質疑応答】

Q.以前行っていたアンバサダー制度についてどうなったのか教えて欲しい

A. (社長) 入場者数を増やす為には来場した人が伝道師となって周りの人にスタジアムに行こうと誘うのが王道のやり方であると思っています。スタジアム場内外の雰囲気伝えることができるのはスタジアムに来たことがある人だけです。アンバサダー制度というのはそういった誘う文化というか口コミの慣習をサポーターの皆さんの中に芽吹かせる為のイントロダクションとして実施しました。コロナ禍で一度中止しましたがスタジアム外でお祭りの雰囲気を出すとか、ピッチで必死に選手が戦うなど誘いやすい状況を作ることにより、平均来場者数もコロナ禍前を超えることができました。そういった意味では特段この制度を復活させなくても良いと思っていますし、引き続き我々は飲食やイベントなどスタジアム内外を充実させていきますので、皆さんには誘いの輪を広げていただければと思っています。

Q.市町村サクスデーで無料招待を申し込む際にJリーグIDの取得が必須であり、一部の人にとってそれが申し込む際の障害になっているのではないかと感じるがクラブとしてはどう思っているか？

A. (武協事業部長) JリーグIDを取得してもらうのはその後リピートで来場してもらう為のマーケティングの観点からも引き続き取得していただきたいと思っています。おっ

しゃるとおり外国人の方や年配の方の取得が難しい方もおられると思います。そのような方々に対して別途対応するなど、できることがないか各市町村とも話を今後していきたいと思います。

Q.2023年最終戦で6,000人を超える来場者があって盛り上がりが凄かった。2024シーズンの開幕からこれくらいの方が来場すれば盛り上がると思うが何か施策を考えているのか？

A. (社長) エスパルス時代にアウェイ徳島でJ1昇格を懸けた試合に5,000人近く来場があり、次の年のホーム開幕戦にそれがどの程度繋がったかという難しい判断になります。何がしたいかと言うと昇格がかかっているから、優勝がかかっているからという状況になれば様々な媒体で情報を得て人は自然に集まります。そういう状況ではなくてもスタジアムに来てくれる人、カタール富山がライフワークの一部になっている人を増やさないといけないと思っています。近年力を入れているが、街中にどんどん出て行ってポスターを貼ってもらうなど、のぼりや幕が街中に溢れてカタール富山が身近に感じてもらえるような努力は続けていきたいと思っています。もう一つ皆さんに伝えたいのが、新体制発表会でコールリーダーに西田君たちが復興支援に対する思いを書いた横断幕を掲げてくれたのですが、クラブとしても『北陸を元気に！』という思いで募金活動であったりできる範囲で活動していきたいと思っています。

Q. 社長の話の中で移籍金収入が今後のクラブの収入源になる時代が来ると言っていたが、下部組織で若い世代を育てていくのが大事になるなかで現在カタール富山のアカデミーはどのような状況か教えて欲しい。

A. (野田普及育成部長) ここ数年アカデミーからトップ昇格する選手が出てきていないのは事実です。ただ現在の日本代表の選手の中でもJリーグの下部組織から大学を経て選ばれている選手も多いです。我々としてはもちろんユースからトップチームに上がれる選手を育てるのもそうですが、現在所属している松岡選手のように大学を経由してカタール富山で活躍している選手が増えるようにも頑張っていきたいと思っています。先日松岡選手には自分のキャリアについてアカデミーの子供達に話してもらった機会を設けました。現在筑波大学で1年生ながら試合に絡む活躍をしている小川選手など、関東や関西様々なリーグでカタール富山アカデミーOBが選手として活躍しています。そういった選手達についてもサポーターの皆さん是非応援してあげてください。

Q. ほくりくアイドル部を応援ガールに選んだ狙いを教えて欲しい

A. (武協事業部長) カタール富山サポーターの年齢層は年々上がってきており、10代～30代のサポーターの数があまり増えてない中でどう増やしていくのかという課題があります。その中で今回新たなチャレンジとして、若い方を中心にほくりくを元気にする為に

活動しているアイドル部の皆さんと協力してお互いが新たなファンを獲得できたかなと思っています。ほくりくアイドル部の方からのカターレ富山に対する発信が少ないなどご意見はあると思いますが、やはり初めての取り組みですのでコミュニケーションを取りながら進めていきたいと思っています。サポーターの皆さんも暖かい目で彼女たちを応援していただければと思います。

Q. スタッフ発表時に通訳の方の記載がありませんでした。マテウス選手やガブリエル選手などとのコミュニケーションは通訳無しで大丈夫なのでしょうか？

A. (社長) 通訳スタッフについては通訳無しでいくということではなく、ずっと通訳スタッフを探していました。数日前にようやくスタッフが決まり、これでマテウス選手などが困る事もなくなるかなと思っています。

Q. 昨年DAZNでのJ3の中継が無くなるというニュースがあったが、それ以来中継に関するアナウンスが無いがどうなっているのか？

A. (社長) J3の中継に関する正式な情報は我々にもまだリーグから降りて来ておりません。リーグからももう少しでアナウンスがあるとは聞いておりますのでお待ちいただければと思います。いずれにしてもDAZN視聴者数をもっと増やしていくよう皆さんにもお願いいたします。(1月22日Jリーグより正式にアナウンスあり)



以上で2024 ファン・サポーターカンファレンス終了